

平成 30 年度 九州大学 2 次試験後期日程 (数学問題)120 分  
工学部 3 月 12 日 数学 I・II・III・A・B

1 次で定義でされる数列  $\{I_n\}$  を考える .

$$I_n = 2n \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x \cos^{2n-1} x dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

以下の問いに答えよ .

(1) 次の等式が成り立つことを証明せよ .

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^n x dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

(2) 数列  $\{I_n\}$  が次の式を満たすことを証明せよ .

$$I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n} x dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

(3)  $\frac{d}{dx}(\cos x \sin^{n-1} x)$  を  $\sin x$  と  $n$  を用いて表せ .

(4) 数列  $\{I_n\}$  が次の漸化式を満たすことを証明せよ .

$$I_n = \frac{2n-1}{2n} I_{n-1} \quad (n = 2, 3, 4, \dots)$$

(5) 数列  $\{I_n\}$  の一般項を求めよ .

- 2 実数  $a, b$  と虚数単位  $i$  を用いて複素数  $z$  が  $z = a + bi$  の形で表されるとき,  $a$  を  $z$  の実部といい  $a = \operatorname{Re} z$  と書き表し,  $b$  を  $z$  の虚部といい  $b = \operatorname{Im} z$  と書き表す. また  $z$  の絶対値を  $|z|$  で表す. 以下の問いに答えよ.

- (1) 複素数  $u = \frac{5 + 5\sqrt{3}i}{\sqrt{2} + \sqrt{2}i}$  を極形式で表せ.
- (2) 条件  $\operatorname{Re} w \leq 0, \operatorname{Im} w \geq 0, 40 \leq |w| \leq 135$  を満たす複素数  $w$  全体のなす領域

$$D = \{w \mid \operatorname{Re} w \leq 0, \operatorname{Im} w \geq 0, 40 \leq |w| \leq 135\}$$

を考える. このとき,  $z^3 u$  が  $D$  に属するような複素数  $z$  全体のなす領域

$$A = \{z \mid z^3 u \in D\}$$

を図示せよ.

- (3) 複素数  $z$  が領域  $A$  上を動くとき,  $z$  と  $-2$  との距離が最小になるような  $z$  を求めよ. 解答に極形式を用いてよい.

- 3 5人に「あなたの年齢は20代ですか」という質問をする. ただし, 各回答者は, 「はい」か「いいえ」と答える前にさいころを振り, 1または2の目が出たときは正直に答え, 3以上の目が出たときは, うその答えを言うものとする. 以下の問いに答えよ.

- (1) 5人のうち20代が1人もいないとき, 「はい」と答える人数が3である確率を求めよ.
- (2) 5人のうち20代がちょうど1人のとき, 「はい」と答える人数が3である確率を求めよ.
- (3) 5人の回答者は街頭調査で出会った人たちとする. ただし, 同じ人と繰り返し出会うこともあるとする. 街頭調査で出会う人が20代である確率が  $p$  のとき, 「はい」と答える人数が3である確率を求めよ.
- (4) (3)の確率が最大となる  $p$  を求めよ.

4  $r$  を正の実数とする．半径がそれぞれ  $r, 2r, 3r$  の3つの球  $C_1, C_2, C_3$  と、これらすべてに接する平面  $\alpha$  がある．ただし、3つの球はすべて平面  $\alpha$  の同じ側で接しているものとする．すなわち、3つの球のそれぞれの中心を結ぶ線分は、いずれも平面  $\alpha$  と交わらないものとする．3つの球  $C_1, C_2, C_3$  と平面との接点をそれぞれ  $P_1, P_2, P_3$  とする．空間において、基点  $O$  を定め、 $\overrightarrow{OP_1} = \vec{p}$ 、 $\overrightarrow{OP_2} = \vec{p} + \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OP_3} = \vec{p} + \vec{b}$  とすると、 $|\vec{a}| = 3r$ 、 $|\vec{b}| = 4r$  であり、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角は  $60^\circ$  である．以下の問いに答えよ．

- (1) 点  $Q$  を平面  $\alpha$  上にある点とする．球  $C_2$  の中心と点  $Q$  との距離を  $d_1$ 、球  $C_3$  の中心と点  $Q$  との距離を  $d_2$  とする．このとき、 $d_1 + d_2$  を最小にする点  $Q$  の位置ベクトル  $\overrightarrow{OQ}$  を、 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}$  を用いて表せ．
- (2) 3つの球  $C_1, C_2, C_3$  の中心を通る平面  $\beta$  と、平面  $\alpha$  との交線を  $l$  とする． $l$  を  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}$  と媒介変数  $t$  を用いて媒介変数表示せよ．
- (3) 点  $R$  を直線  $l$  上にある点とする．球  $C_2$  の中心と点  $R$  との距離を最小にする点  $R$  の位置ベクトル  $\overrightarrow{OR}$  を、 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}$  を用いて表せ．

5 2つの関数  $f(x), g(x)$  をそれぞれ  $f(x) = (a+1)x$ 、 $g(x) = ax^2$  とする．ただし、 $a$  は正の実数とする．以下の問いに答えよ．

- (1)  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフで囲まれた図形を座標平面上に図示せよ．
- (2)  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフで囲まれた図形の面積  $S$  を  $a$  の式で表せ．また、面積  $S$  が最小となる  $a$  と、そのときの面積を求めよ．
- (3)  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフで囲まれた図形の面積  $S$  が最小となるとき、この図形を直線  $y = f(x)$  の周りに1回転してできる回転体の体積  $V$  を求めよ．

## 解答例

□1 (1)  $\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx$  について,  $x = \frac{\pi}{2} - t$  とおくと  $\frac{dx}{dt} = -1$

$x$	$0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$
$t$	$\frac{\pi}{2} \rightarrow 0$

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx &= \int_{\frac{\pi}{2}}^0 \sin^n \left( \frac{\pi}{2} - t \right) \cdot (-dt) \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^n t dt = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^n x dx \end{aligned}$$

(2)  $I_n = 2n \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x \cos^{2n-1} x dx$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) より

$$\begin{aligned} I_n &= - \int_0^{\frac{\pi}{2}} x (\cos^{2n} x)' dx \\ &= - \left[ x \cos^{2n} x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} + \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^{2n} x dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^{2n} x dx \end{aligned}$$

上式および (1) の結果から  $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n} x dx$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ )

(3)  $\frac{d}{dx} (\cos x \sin^{n-1} x) = -\sin x \sin^{n-1} x + \cos x \{(n-1) \sin^{n-2} x \cos x\}$   
 $= -\sin^n x + (n-1) \sin^{n-2} x (1 - \sin^2 x)$   
 $= -n \sin^n x + (n-1) \sin^{n-2} x$

(4) (3) の結果を利用すると

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \{-n \sin^n x + (n-1) \sin^{n-2} x\} dx &= \left[ \cos x \sin^{n-1} x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= -n \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx + (n-1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n-2} x dx = 0 \\ \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x dx &= \frac{n-1}{n} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n-2} x dx \quad \dots (*) \end{aligned}$$

(\*) において,  $n$  を  $2n$  に置き換えると

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n} x dx = \frac{2n-1}{2n} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n-2} x dx$$

よって  $I_n = \frac{2n-1}{2n} I_{n-1}$  ( $n = 2, 3, 4, \dots$ )

(5) (4) の結果から,  $n$  が 2 以上の自然数のとき

$$\prod_{k=2}^n \frac{I_k}{I_{k-1}} = \prod_{k=2}^n \frac{2k-1}{2k} = \prod_{k=2}^n \frac{2k(2k-1)}{(2k)^2}$$

$$\frac{I_n}{I_1} = 2 \prod_{k=1}^n \frac{2k(2k-1)}{2^2 k^2} = 2 \cdot \frac{(2n)!}{2^{2n}(n!)^2} = \frac{2n C_n}{2^{2n-1}}$$

$$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^2 x \, dx \text{ より}$$

$$2I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin^2 x + \cos^2 x) \, dx = \frac{\pi}{2} \quad \text{ゆえに} \quad I_1 = \frac{\pi}{4}$$

$$\text{したがって} \quad I_n = \frac{2n C_n}{2^{2n-1}} I_1 = \frac{2n C_n}{2^{2n-1}} \cdot \frac{\pi}{4} = \frac{2n C_n}{2^{2n+1}} \pi$$

$$\text{上式は, } n = 1 \text{ のときも成立するから} \quad I_n = \frac{2n C_n}{2^{2n+1}} \pi \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

補足  $J_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n-1} x \, dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$  とする.

(\*) において,  $n$  を  $2n-1$  に置き換えると

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n-1} x \, dx = \frac{2n-2}{2n-1} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{2n-3} x \, dx$$

$$\text{よって} \quad J_n = \frac{2n-2}{2n-1} J_{n-1} \quad (n = 2, 3, 4, \dots)$$

$n$  が 2 以上の自然数のとき

$$\prod_{k=2}^n \frac{J_k}{J_{k-1}} = \prod_{k=2}^n \frac{2k-2}{2k-1} = \prod_{k=2}^n \frac{(2k-2)^2}{(2k-1)(2k-2)}$$

$$\frac{J_n}{J_1} = \prod_{k=2}^n \frac{2^2(k-1)^2}{(2k-1)(2k-2)}$$

$$= \frac{2^{2n-2} \{(n-1)!\}^2}{(2n-1)!} = \frac{2^{2n-2}}{(2n-1) \cdot 2^{n-2} C_{n-1}}$$

$J_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \, dx = 1$  より, 上式は  $n = 1$  のときも成立するから

$$J_n = \frac{2^{2n-2}}{(2n-1) \cdot 2^{n-2} C_{n-1}} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$$\boxed{2} \quad (1) \quad \frac{5 + 5\sqrt{3}i}{\sqrt{2} + \sqrt{2}i} = \frac{5\left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)}{\frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{1}{\sqrt{2}}i} = \frac{5(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3})}{\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4}} = 5 \left( \cos \frac{\pi}{12} + i \sin \frac{\pi}{12} \right)$$

$$(2) \quad z = r(\cos \theta + i \sin \theta) \text{ とおくと } (r \geq 0, 0 \leq \theta < 2\pi)$$

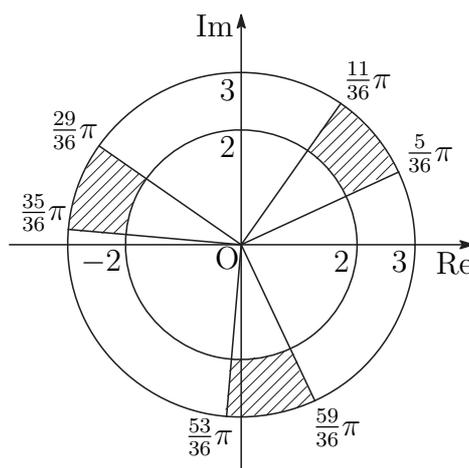
$$\begin{aligned} z^3 u &= \{r(\cos \theta + i \sin \theta)\}^3 \cdot 5 \left( \cos \frac{\pi}{12} + i \sin \frac{\pi}{12} \right) \\ &= 5r^3 \left\{ \cos \left( 3\theta + \frac{\pi}{12} \right) + i \sin \left( 3\theta + \frac{\pi}{12} \right) \right\} \end{aligned}$$

$z^3 u \in D$  であるから,  $n$  を整数とすると

$$40 \leq 5r^3 \leq 135, \quad \frac{\pi}{2} + 2n\pi \leq 3\theta + \frac{\pi}{12} \leq \pi + 2n\pi$$

$$\text{すなわち } 2 \leq r \leq 3, \quad \frac{24n+5}{36}\pi \leq \theta \leq \frac{24n+11}{36}\pi \quad (n=0, 1, 2)$$

よって, 領域  $A = \{z \mid z^3 u \in D\}$  は下の図の斜線部分で, 境界線を含む.



$$(3) \quad (2) \text{ の図から } z = 2 \left( \cos \frac{35}{36}\pi + i \sin \frac{35}{36}\pi \right)$$

- $\boxed{3}$  (1) 正直に答える確率は  $\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$ , うその答えを言う確率は  $\frac{4}{6} = \frac{2}{3}$   
正直に答える者が2人でうその答えを言う者が3人であるから

$${}_5C_2 \left( \frac{1}{3} \right)^2 \left( \frac{2}{3} \right)^3 = \frac{80}{243}$$

- (2) (i) 20代の1人が正直に答えるとき  
他の4人について2人が正直に答え、2人がうその答えを言うから

$$\frac{1}{3} \times {}_4C_2 \left(\frac{1}{3}\right)^2 \left(\frac{2}{3}\right)^2 = \frac{24}{243}$$

- (ii) 20代の1人がうその答えを言うとき  
他の4人について1人が正直に答え、3人がうその答えを言うから

$$\frac{2}{3} \times {}_4C_1 \left(\frac{1}{3}\right)^1 \left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{64}{243}$$

(i),(ii) より、求める確率は  $\frac{24}{243} + \frac{64}{243} = \frac{88}{243}$

- (3) 出会った1人が「はい」と答える確率は  $p \times \frac{1}{3} + (1-p) \times \frac{2}{3} = \frac{2-p}{3}$   
 出会った1人が「いいえ」と答える確率は  $p \times \frac{2}{3} + (1-p) \times \frac{1}{3} = \frac{1+p}{3}$   
 したがって、出会った5人のうち3人が「はい」と答える確率は

$${}_5C_3 \left(\frac{2-p}{3}\right)^3 \left(\frac{1+p}{3}\right)^2 = \frac{10}{243} (2-p)^3 (1+p)^2$$

(4)  $f(p) = \frac{10}{243} (2-p)^3 (1+p)^2$  とおくと  $f'(p) = \frac{10}{243} (2-p)^2 (1+p)(1-5p)$

$0 \leq p \leq 1$  における  $f(p)$  の増減は次のようになる。

$p$	0	...	$\frac{1}{5}$	...	1
$f'(p)$		+	0	-	
$f(p)$		↗	極大	↘	

(3) の確率が最大となる  $p$  は  $p = \frac{1}{5}$

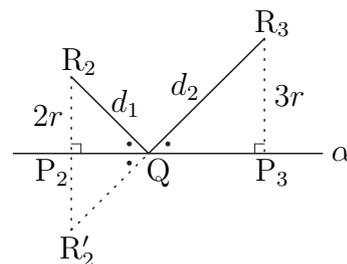
別解 3個の正数  $\frac{2-p}{3}$  と 2個の正数  $\frac{1+p}{2}$  の相加・相乗平均の大小関係により

$$\frac{1}{5} \left\{ 3 \cdot \frac{2-p}{3} + 2 \cdot \frac{1+p}{2} \right\} \geq \sqrt[5]{\left(\frac{2-p}{3}\right)^3 \left(\frac{1+p}{2}\right)^2}$$

$$\left(\frac{3}{5}\right)^5 \geq \frac{(2-p)^3 (1+p)^2}{3^3 \cdot 2^2} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{10}{243} (2-p)^3 (1+p)^2 \leq \frac{216}{625}$$

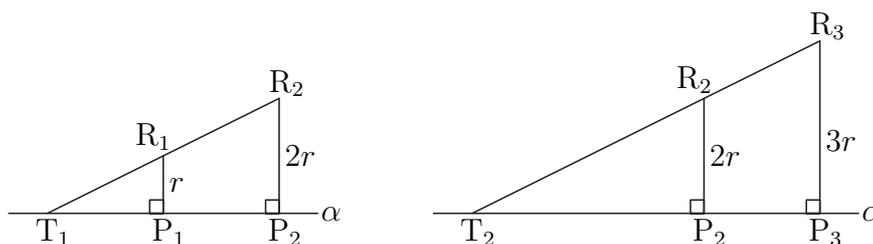
(3) の確率が最大になるとき  $\frac{2-p}{3} = \frac{1+p}{2}$  これを解いて  $p = \frac{1}{5}$

- 4 (1)  $C_i$  の中心を  $R_i$  とし ( $i = 1, 2, 3$ ),  $\alpha$  に関して  $R_2$  と対称な点を  $R'_2$  とする.  $Q$  は線分  $R'_2R_3$  と  $\alpha$  の交点であるから,  $Q$  は線分  $P_2P_3$  を 2 : 3 に内分する点である.



$$\overrightarrow{OQ} = \frac{3(\vec{p} + \vec{a}) + 2(\vec{p} + \vec{b})}{2 + 3} = \vec{p} + \frac{3}{5}\vec{a} + \frac{2}{5}\vec{b}$$

- (2) 2 直線  $R_1R_2$ ,  $R_2R_3$  と  $\alpha$  との交点をそれぞれ  $T_1$ ,  $T_2$  とする.



$T_1$  は線分  $P_1P_2$  を 1 : 2 に外分する点であるから

$$\overrightarrow{OT_1} = \frac{-2\vec{p} + (\vec{p} + \vec{a})}{1 - 2} = \vec{p} - \vec{a}$$

$T_2$  は線分  $P_2P_3$  を 2 : 3 に外分する点であるから

$$\overrightarrow{OT_2} = \frac{-3(\vec{p} + \vec{a}) + 2(\vec{p} + \vec{b})}{2 - 3} = \vec{p} + 3\vec{a} - 2\vec{b}$$

したがって  $\overrightarrow{T_1T_2} = 4\vec{a} - 2\vec{b} = 2(2\vec{a} - \vec{b})$

交線  $l$  は直線  $T_1T_2$ , すなわち,  $T_1$  を通り,  $2\vec{a} - \vec{b}$  に平行な直線である. よって,  $l$  の方程式は, 媒介変数  $t$  を用いて

$$\overrightarrow{OT_1} + t(2\vec{a} - \vec{b}) = \vec{p} - \vec{a} + t(2\vec{a} - \vec{b}) = \vec{p} + (2t - 1)\vec{a} - t\vec{b}$$

- (3)  $R_2R^2 = R_2P_2^2 + P_2R^2 = 4r^2 + P_2R^2$

$R$  は  $P_2R$  が最小となる, すなわち,  $\overrightarrow{P_2R} \perp (2\vec{a} - \vec{b})$  を満たす点である.

(3) の結果から  $\overrightarrow{OR} = \vec{p} + (2t - 1)\vec{a} - t\vec{b}$

$$\overrightarrow{P_2R} = \overrightarrow{OR} - \overrightarrow{OP_2} = 2(t - 1)\vec{a} - t\vec{b}$$

$|\vec{a}| = 3r$ ,  $|\vec{b}| = 4r$ ,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}| \cos 60^\circ = 6r^2$ ,  $\overrightarrow{P_2R} \cdot (2\vec{a} - \vec{b}) = 0$  より

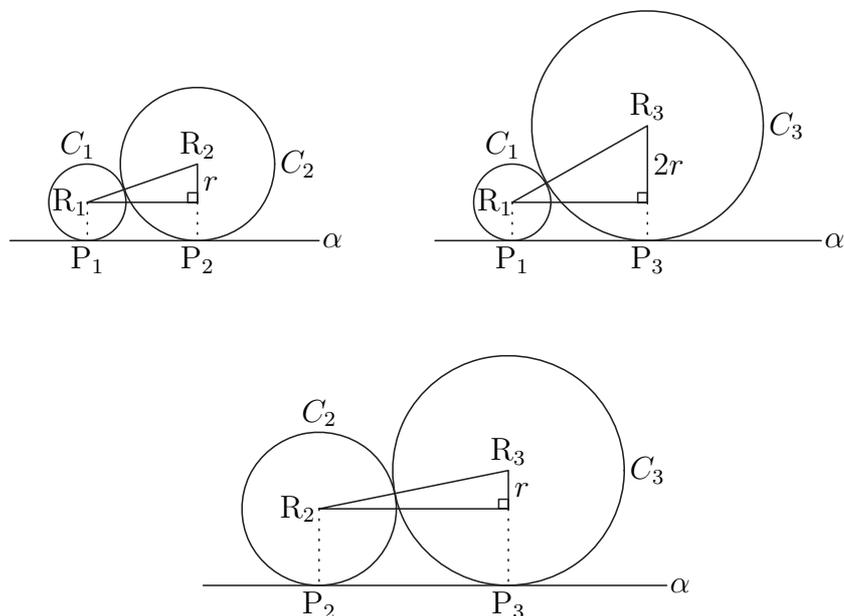
$$\{2(t - 1)\vec{a} - t\vec{b}\} \cdot (2\vec{a} - \vec{b}) = 0$$

$$4(t - 1)|\vec{a}|^2 - 2(2t - 1)\vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 = 0$$

$$4\{9(t - 1) - 3(2t - 1) + 4t\}r^2 = 0$$

ゆえに  $t = \frac{6}{7}$  (3) の結果に代入して  $\overrightarrow{OR} = \vec{p} + \frac{5}{7}\vec{a} - \frac{6}{7}\vec{b}$

参考 本題において,  $C_1, C_2, C_3$  が互いに外接しているとき,  $|\vec{a}|, |\vec{b}|, \vec{a} \cdot \vec{b}$  を求める.



$$\vec{OP}_1 = \vec{p}, \vec{OP}_2 = \vec{p} + \vec{a}, \vec{OP}_3 = \vec{p} + \vec{b} \text{ より}$$

$$\vec{P_1P_2} = \vec{a}, \vec{P_1P_3} = \vec{b}, \vec{P_2P_3} = \vec{b} - \vec{a}$$

$R_1R_2 = 3r, R_1R_3 = 4r, R_2R_3 = 5r$  であるから, 上の図から

$$|\vec{a}| = \sqrt{(3r)^2 - r^2} = 2\sqrt{2}r,$$

$$|\vec{b}| = \sqrt{(4r)^2 - (2r)^2} = 2\sqrt{3}r,$$

$$|\vec{b} - \vec{a}| = \sqrt{(5r)^2 - r^2} = 2\sqrt{6}r$$

$$|\vec{b} - \vec{a}|^2 = |\vec{b}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{a}|^2 \text{ より}$$

$$24r^2 = 12r^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + 8r^2 \quad \text{ゆえに} \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = -2r^2$$

このとき, 本題の (1), (2) の答は変わらないが, (3) においては上の結果を

$$4(t-1)|\vec{a}|^2 - 2(2t-1)\vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 = 0$$

に代入すると

$$4\{8(t-1) + (2t-1) + 3t\}r^2 = 0 \quad \text{これを解いて} \quad t = \frac{9}{13}$$

$$\text{このとき} \quad \vec{OR} = \vec{p} + \frac{5}{13}\vec{a} - \frac{9}{13}\vec{b}$$

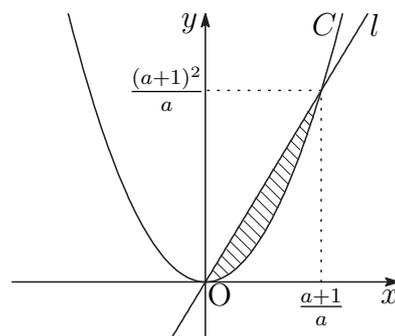
- 5 (1)  $l: y = f(x)$ ,  $C: y = g(x)$  とする.  
 $l$  と  $C$  の方程式から  $y$  を消去すると

$$(a+1)x = ax^2$$

ゆえに  $ax \left( x - \frac{a+1}{a} \right) = 0$

交点は  $(0, 0)$ ,  $\left( \frac{a+1}{a}, \frac{(a+1)^2}{a} \right)$

$l$  と  $C$  で囲まれた図形は右の図の斜線部分.



- (2) (1) の結果から

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\frac{a+1}{a}} \{(a+1)x - ax^2\} dx \\ &= a \int_0^{\frac{a+1}{a}} x \left( \frac{a+1}{a} - x \right) dx = \frac{a}{6} \left( \frac{a+1}{a} \right)^3 = \frac{(a+1)^3}{6a^2} \end{aligned}$$

$S = \frac{1}{6}a^{-2}(a+1)^3$  を  $a$  について微分すると

$$\begin{aligned} \frac{dS}{da} &= \frac{1}{6} \{-2a^{-3}(a+1)^3 + 3a^{-2}(a+1)^2\} \\ &= \frac{1}{6}a^{-3}(a+1)^2 \{-2(a+1) + 3a\} = \frac{1}{6a^3}(a+1)^2(a-2) \end{aligned}$$

したがって,  $S$  の増減表は次のようになる.

$a$	(0)	...	2	...
$\frac{dS}{da}$		-	0	+
$S$		↘	$\frac{9}{8}$	↗

よって,  $S$  は  $a = 2$  のとき, 最小値  $\frac{9}{8}$  をとる.

(3) (2) の結果より  $a = 2$  であるから, これを(1) に適用すると

$$l : y = 3x, \quad C : y = 2x^2$$

これらの交点の座標は  $(0, 0), \left(\frac{3}{2}, \frac{9}{2}\right)$

$l$  に平行な単位ベクトルと垂直な単位ベクトルを, それぞれ

$$\frac{1}{\sqrt{10}} \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad \frac{1}{\sqrt{10}} \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix}$$

とし, この向きに  $X$  軸,  $Y$  軸を定め, 次の直交変換を行う.

$$\frac{X}{\sqrt{10}} \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} + \frac{Y}{\sqrt{10}} \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

すなわち  $\frac{X + 3Y}{\sqrt{10}} = x, \quad \frac{3X - Y}{\sqrt{10}} = y$

ゆえに  $X = \frac{x + 3y}{\sqrt{10}}, \quad Y = \frac{3x - y}{\sqrt{10}}$

$C : y = 2x^2 \left(0 \leq x \leq \frac{3}{2}\right)$  はこの直交変換により

$$X = \frac{x + 6x^2}{\sqrt{10}}, \quad Y = \frac{3x - 2x^2}{\sqrt{10}} \quad \begin{array}{|l|l|l|} \hline x & 0 & \longrightarrow & \frac{3}{2} \\ \hline X & 0 & \longrightarrow & \frac{3\sqrt{10}}{2} \\ \hline \end{array}$$

求める回転体の体積  $V$  は,  $\frac{dX}{dx} = \frac{1 + 12x}{\sqrt{10}}$  により

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\frac{3\sqrt{10}}{2}} Y^2 dX = \pi \int_0^{\frac{3}{2}} \left(\frac{3x - 2x^2}{\sqrt{10}}\right)^2 \frac{1 + 12x}{\sqrt{10}} dx \\ &= \frac{2\pi}{5\sqrt{10}} \int_0^{\frac{3}{2}} x^2 \left(\frac{3}{2} - x\right)^2 (1 + 12x) dx \\ &= \frac{2\pi}{5\sqrt{10}} \int_0^{\frac{3}{2}} \left\{ x^2 \left(\frac{3}{2} - x\right)^2 + 12x^3 \left(\frac{3}{2} - x\right)^2 \right\} dx \\ &= \frac{2\pi}{5\sqrt{10}} \left\{ \frac{2!2!}{5!} \left(\frac{3}{2}\right)^5 + 12 \cdot \frac{3!2!}{6!} \left(\frac{3}{2}\right)^6 \right\} = \frac{81\pi}{80\sqrt{10}} \end{aligned}$$

補足  $\int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)^m (\beta - x)^n dx = \frac{m!n!}{(m+n+1)!} (\beta - \alpha)^{m+n+1}$  を利用<sup>1</sup> .

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_tech\\_2010\\_kouki.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_tech_2010_kouki.pdf) [1]

発展  $l: y = 3x$ ,  $C: y = 2x^2$  で囲まれた図形を  $x$  軸および  $y$  軸の周りに 1 回転して  
できる回転体の体積をそれぞれ  $V_x$ ,  $V_y$  とすると

$$V_x = \pi \int_0^{\frac{3}{2}} \{(3x)^2 - (2x^2)^2\} dx = \pi \left[ 3x^3 - \frac{4}{5}x^5 \right]_0^{\frac{3}{2}} = \frac{81}{20}\pi,$$

$$V_y = 2\pi \int_0^{\frac{3}{2}} x(3x - 2x^2) dx = 4\pi \int_0^{\frac{3}{2}} x^2 \left( \frac{3}{2} - x \right) dx$$

$$= 4\pi \cdot \frac{2!1!}{4!} \left( \frac{3}{2} \right)^4 = \frac{27}{16}\pi$$

パップス・ギュルダンの定理<sup>2</sup>により, 図形の重心  $G$  は

$$\left( \frac{V_y}{2\pi S}, \frac{V_x}{2\pi S} \right) \quad \text{すなわち} \quad \left( \frac{3}{4}, \frac{9}{5} \right)$$

$$G \text{ と } l: 3x - y = 0 \text{ の距離 } h \text{ は } h = \frac{\left| 3 \cdot \frac{3}{4} - \frac{9}{5} \right|}{\sqrt{3^2 + (-1)^2}} = \frac{9}{20\sqrt{10}}$$

$$\text{よって} \quad V = 2\pi h S = 2\pi \cdot \frac{9}{20\sqrt{10}} \cdot \frac{9}{8} = \frac{81\pi}{80\sqrt{10}}$$

パップス・ギュルダンの定理は, 高校数学の範囲外である. 入試では使用できないが, 便利な検算法である.

<sup>2</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_ri\\_2012.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2012.pdf) の 6 ページを参照.